

〔ワークショップ／子宮内膜症—新しい治療の開発を目指して—〕

チョコレート嚢胞における HER 2 / neu 発現の検討 —新たな治療戦略を求めて—

- 1) 近畿大学医学部奈良病院産婦人科
- 2) 同・臨床検査部

天野 陽子¹⁾, 小畑孝四郎¹⁾, 生駒 直子¹⁾, 大村 元¹⁾,
三橋 洋治¹⁾, 井上 芳樹¹⁾, 太田 善夫²⁾

目 的

卵巣チョコレート嚢胞の子宮内膜類似間質にはエストロゲンレセプター (ER), プロゲステロンレセプター (PR) の発現は認められるが, 卵巣子宮内膜類似上皮には ER および PR 発現が乏しく, GnRHa 等のホルモン療法が効きにくい一要因となっている可能性がある. 乳癌では ER, PR のない症例の多くで HER 2 / neu 発現がみられ, HER 2 蛋白をターゲットにした治療が奏効している. そこで, 新たな治療戦略を求めて卵巣チョコレート嚢胞における HER 2 / neu 発現を検討した.

方 法

近畿大学医学部奈良病院産婦人科にて手術摘出した卵巣チョコレート嚢胞のパラフィン包埋切片を用いて ER, PR, HER 2 / neu の免疫染

色を行い, 陽性率および染色の局在を検討した. 乳癌における HER 2 陽性基準に準じて, 上皮細胞の10%以上染色されるものを陽性として検討した.

成 績

卵巣チョコレート嚢胞における上皮細胞の染色陽性率は 70% (7 / 10) であり, その局在は ER, PR の発現がみられない部分に染色される傾向がみられた.

結 論

卵巣チョコレート嚢胞に対して, HER 2 蛋白をターゲットにした治療と GnRHa を併用することにより治療効果を上げる可能性が考えられ, HER 2 蛋白をターゲットにした新たな治療戦略の可能性が示唆された.